

## I はじめに

入院患者に対する看護サービスは、1日24時間にわたって提供されるべきものであり、このことは昔も現在も変わらない。しかし、看護サービスの提供体制や受ける側のニーズは時代の変化とともに、大きく変貌している。看護職員の勤務体制についても、かつて3交代制が主流であったが、最近では変則3交代制や2交代制などを取り入れる病院が増加しており、多様化が進んできている。

それでは、実際に変則3交代制や2交代制を採用している病院はどのような経緯でそれらを導入し、その結果、看護職員の労働条件や看護サービスの質にどのような影響を及ぼしているのだろうか。これらを見ると、個々の病院が置かれた状況や具体的な課題・方法などは異なっているものの、「成功の要素」として共通にみられるものがある。これらの事例の概略と、勤務体制をめぐる経緯・勤務体制多様化の現状など各種の資料をあわせて、今後の勤務体制に関する議論にむけた基礎資料として提供することが、本稿の目的である。

なお、本稿は本会調査・情報管理部調査研究課：叶谷由佳（嘱託研究員）、調査・情報管理部：岩下清子、同部調査研究課：奥村元子が担当した。